

# 突風・降雹に伴う農作物等管理技術対策について

令和5年4月7日  
農 林 部

4月7日熊谷地方気象台発表の「雷と突風及び降ひょうに関する埼玉県気象情報 第1号」によると、8日は大気の状態が非常に不安定となり、昼過ぎから夜のはじめ頃にかけて雷を伴った強い雨の降る所がある見込みです。落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意してください。

下記の農作物技術対策を参考にしてください。

## 共通事項

- 1 ハウスでは、支柱、支線、ターンバックル、ビニルなどを点検・補修し、必要に応じて筋交いを入れるなどして補強する。  
また、周辺に風で飛散する物がないよう整理する。
- 2 ベたがけ資材やトンネル資材が強風等であおられないよう点検・補強するとともに、被覆資材のすそも土中に埋めるなどの対策を講じる。
- 3 局地的には非常に激しく雨を伴う恐れもあるので、排水溝を設置し排水ができるよう準備する。  
また、冠水または浸水したほ場は速やかに排水する。

## ねぎ

- 1 茎葉を損傷した株は7～10日程度で出葉して回復するので、ほ場に入れるようになったらべと病、葉枯病等を対象とした薬剤散布を行い、回復を見てから追肥等を行う。

## ブロッコリー(春どり)

- 1 花蕾が出来ているものは薬剤の散布を行わず、損傷部分を整理し、早期に出荷する。
- 2 花蕾が小さい場合は、薬剤散布を行い、病害発生を予防する。

## キャベツ

- 1 出荷間近なもので被害の軽いものは、出荷時に丁寧に調整を行い商品価値を落とさないようにする。

- 2 損傷が軽く、収穫までに日数を要する場合は、薬剤散布を行い、病害発生を予防する。

なし

- 1 多目的防災網を整備してある果樹園で、まだ網を広げていないところでは、早急に網を広げ、気象災害に備える。
- 2 すでに展張済みの園では、強風等により飛ばされないよう、ひもの緩みの点検等を行う。
- 3 多目的防災網のない園で、降雹等の被害を受けた園では、次の対策を行う。  
○人工授粉後、花の子房や軸が被害を受けた場合は、残っている健全な花そうや花を選んで 追加で人工受粉を行う。

茶

- 1 手摘み園や生育ステージの進んでいる園では防風ネット等の対策を行う。
- 2 整枝せん定  
萌芽前後の被害の場合は放任する。  
2～3葉期以降は損傷が著しい場合のみ新芽を刈り落とし、少ない被害なら放任する。
- 3 施肥  
芽出し肥を施用していない損傷の大きい茶園では、速効性窒素肥料を窒素成分で10アール当たり10kg程度（硫安で50kg）施用する。
- 4 害虫防除  
被害後はカンザワハダニが多発することがあるので注意する。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

◎農薬の使用に際しては、以下のホームページで御確認ください。

- ・ 農林水産省 <https://pesticide.maff.go.jp/>

《問い合わせ先》

共通事項・野菜	農業技術研究センター 農業革新支援担当 電話 048-536-6034
果樹	農業技術研究センター 農業革新支援担当 久喜試験場 電話 0480-21-1140
茶	茶業研究所 農業革新支援担当 電話 04-2936-1351